



# Let's TANDQ便り

本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

## 今号の内容

「総合的な探究の時間」  
共創型実践校キックオフ  
交流会の開催報告

夏の校内研修に向けた  
ワークショップの開催報  
告



## 探究をキーワードに，学校間を越えて，生徒と教員がつながる場

「総合的な探究の時間」共創型実践校（5校）の生徒さんを中心に「私たちの『探究』をつくろうプロジェクト」を立ち上げ，そのキックオフ交流会を7月19日（火）に開催しました。

探究活動に取り組む中で，結果や成果を重視するのではなく，何を考え，自分がどのように変わっていくのかを楽しむ時間を，高校生や先生方とともに創ってきたいという思いから，「私たちの探究をつくろうプロジェクト」を立ち上げました。実践校の5校の生徒さんをはじめ，全国から，高等学校の先生方を中心に，中学生・高校生，民間企業にお勤めの方等，さまざまな立場の120名を超える皆様からお申し込みいただきました。

交流会は，本プロジェクトの連携協力校の生徒である岩崎さんの「『探究』の授業では，自分自身が興味のある，将来にもつながるテーマを設定し，探究を進めていきたいです。自分たちの探究をともに創っていきましょう！」というキックオフ宣言にて開会し，同校の帖佐さん，浜村さんのファシリテートのもと進行しました。

最初に，二人の大学生に，高校時代の探究活動が，現在にどのようにつながっているのかを共有していただきました。さらに，高校生の山田さんから，探究活動を進めるにあたっての高校生の実情，そして，高校教員に向けた問題提起をしていただきました。

次に，事前に参加者から募集した対話のテーマをもとに，グループに分かれて，学びの当事者である高校生を中心に対話を行いました。教員が用意したことと自分の想いのギャップや探究の目的がわからないという不安から，やらされ感を抱く高校生がいる一方で，探究を通して更に興味・関心を深め，新たな気づきを得たと話す高校生もいました。教員からは，高校の3年間とその先との連続性や生徒が自然と学びに向かえる題材や問いの必要性について意見が出されました。

最後に，実践校の5校の先生方より，探究活動を進める高校生へのメッセージをいただきました。高校生の声を大切に，生徒と教員が「探究」を共創していく雰囲気が醸成されたキックオフ交流会になりました。

参加者からは，「探究について不安なことばかりだったので他校の取り組みや失敗談，成功談を聞いて参考になった。」「今までは探究を難しく考えていたが，身近なことも探究になると考えるととても楽になった。」「教員よりも生徒の方が新しい時代に順応し，新しい学びのあり方としての『探究』に意欲をもってしているとわかってよかった。むしろ教員側がステレオタイプの教育観に囚われているような気がした。」といった感想をいただきました。

# 校内研修を アップデートしませんか

7月に、夏の校内研修に向けたリーダー・ファシリテーターのためのワークショップを開催しました。

「令和の日本型学校教育」を担う教員としての資質の向上を推進する体制整備のひとつとして、日常的な校内研修等の充実が求められています。今回のワークショップでは、「経験を振り返ることを基礎とした学び」「他者との対話から得られる学び」をキーワードとして、全国の先生方と校内研修のあり方や学習評価についても考える機会にしたいという想いで企画しました。

ワークショップ体験では、最初に、ルールを共有した後、アイスブレイクとして「こんな校内研修はいやだ！」をGoogle Jamboardに出し合っていたところ、「一方的で終わった後、何も心に残らない」「研修することが目的になっている」「ベテランの一言で、意見がひっくり返る」といった本音での対話が繰り返し広げられました。そこから「終わった後に前向きになれる研修」「生徒の姿で語れる研修」「生徒の顔が浮かんでくるような実践的な研修」「あっという間に終わった感のある研修」にしたい！という強い想いを共有し、教科チームで、各ワークに入りました。

こんな校内研修はいやだ！					
管理職が一方的に情報を伝えるだけの研修	テスト期間に無理やりねじ込まれる校内研修	目的がない。対話が生まれない研修	研修したという事実が大事	研修後のフィードバックの機会がない	
学びがない	本音がいえない	とりあえずやってくさい	現場の喫緊の課題とマッチしていない	否定的な話や批判的な意見で終わる	
こんな校内研修にしたい！					
課題や生徒の姿を共有できる研修	自分事として捉えることができるテーマ	他の先生方の考え方や人柄を知りたい	実現可能かどうかより、建設的な話し合い、対話ができる研修	自由に意見や想いが出し合える研修	前向きな気持ちになれる研修

## アイスブレイク

年度当初にビジョンを共有する機会がありましたか？

- ・こんな校内研修はいやだ！
- ・こんな校内研修にしたい！

オンライン版：ジャムボードに“本音”を書き込んで、対話してください！【8分】

©東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 高校探究プロジェクト

最初のワークでは、1学期のご自身の授業実践を「分かち合う」「内省する」「深め合う」という3つの活動を通して、振り返っていただきました。次に、年度当初に設定したビジョンをもとに、実践がビジョンにつながっていたか、ズレていなかったか、また、そもそもビジョンがチームで共有できていたのかを確認し合い、2学期の実践を見通して、「成果目標」「プロセス目標」について考えていただきました。最後に、設定した「プロセス目標」に生徒が到達したかどうかをどの場面で、どのように評価するのか、アイデアを出し合っていました。「プロセス目標」を言語化することに苦労されている様子でしたが、どのように表現すれば生徒に伝わるのか、生徒の姿をもとに対話されている様子が印象的でした。最後に、今後、校内や地域の先生方とどのような研修にしていきたいかを宣言していただきました。

<参加者のご感想等>

- ・2学期に向けてエネルギーをいただきました。今回のワークショップでの学びを、生徒にどのように活用できるか模索してみます。
- ・今回は、特に「プロセス目標」が印象に残っています。評価基準（評価の視点）の重要性に気づきながらも、どうしたら実践に取り入れられるのか悩んでいましたが、そのヒントが「プロセス目標」にある気がしました。
- ・実際に体験することでファシリテーションについて実践的に学ぶことができました。本校でも近々教員研修を行いますので、参考にします。このようなワークショップは、非常に学びの多い充実した機会となりますので、ぜひ継続していただきたいです。

また、同じチームの先生同士で、お互いの授業を参観し合う機会がほしいといったお声も頂戴しました。本プロジェクトが推進している各教科の授業研究ワークショップ等と連携させながら実現できる方策を模索していきつつ、コミュニティを拡げていきます。

## 教育センター等の 指導主事対象オンライン対話

参加者募集しています！

## 世界史/歴史総合 授業づくりワークショップ

次年度の研修について、地域を越えて、意見交流しませんか。本音の対話を通して、新しいカタチの令和型教員研修のあり方について考えましょう。教科別の交流も予定しています。高等学校の教員研修に関わっておられる先生方対象です。ご参加をお待ちしております。

開催日時：2022年9月26日（月）15:00～16:30  
申込締切：2022年9月15日（木）  
申込フォーム：<https://forms.gle/Bp6Sy51NWtQxo8UMA>



「歴史総合」を踏まえた世界史の実践事例をもとに、他者との協働による「学んだ知識を忘れても、概念的に考えたことは残る授業づくり」にチャレンジしませんか。どのように授業を転換していけばよいか、悩み迷っておられる先生方、ぜひ、ご参加ください。

開催日時：2022年8月27日（土）13:30～16:00  
申込締切：2022年8月19日（金）  
申込フォーム：<https://forms.gle/XjSpUy4w1sFPmGo96>

